

この指とまれ！ 日本一のマンションコミュニティの創出 マークス・ザ・タワー藤枝（藤枝市）

プロフィール

- 活動テーマ：集合住宅でのコミュニティづくり
- 代表者名：八木 哲さん
- 発足年度：平成24年（2012年）
- メンバー数：334人
- 地域条件：駅前マンション



活動のきっかけ

以前から、コミュニティづくりの必要性を感じていた。その身が、新築マンションに入居し、理事長を拝命することとなった。

「共有スペース」がある点が、他のマンションと異なり、魅力でもある。

「これなら良いコミュニティづくりができるのではないか」という展望と確信を持ち、就任後、折を見ては「そのための活動」を行ってきた。その甲斐あってか、知り合いも増え、2年目の町内会発足時、委員もすんなり決まり、活動し易くなった。

自身のコミュニティづくりに対する必要感・意欲、共有スペースの存在、理事長就任、町内会の発足。こうしたことが活動の「きっかけ」である。

さまざまなふれあい行事、活動

- 1 ぼく・わたし・パパ・ママ交流会
- 2 持ち寄りパーティ（会費100円飲み放題・ハイキング）
- 3 「不燃物・資源ごみ回収の立合い」も、「この指とまれ！」で
- 4 近隣地域とのイベントにも貢献しよう、溶け込もう
- 5 個人情報に対する「過剰反応」への対応・予防
- 6 ミニイベント 夏も 年末年始も

- 7 自分たちのマンションは自分たちの手でー「草取り」
- 8 2周年「住民親睦会」
- 9 居住者への手紙・メール
- 10 夏祭り
- 11 マンションならではの防災訓練
- 12 「文化祭」地域の方々もご招待
- 13 マークス徒然草
- 14 快適なコミュニティ環境を目指して
- 15 事業報告は丁寧に

※ これらの補足資料としてA4判179枚が添付されていた。

工夫した点や苦勞した点

- 活動の基本を「この指とまれ!」とし、「参加懇願・参加強制」はしなかった。
- 活動案内には、内容だけでなく趣旨説明・意義等も記した。
- 活動のたびに「それがどのようなものであったか」掲示（広報）した。
- 初年度は、町内会も発足しておらず、すべての交流会・パーティの準備・設営を妻と2人だけでやったため、やや骨が折れた。（が、展望と確信をもっており、苦にはならなかった）
- 管理組合・町内会それぞれに役員・役員会・活動・総会があり、「理事長」と「町内会長」（防災委員長・保健委員長）というやや性質の異なる両方の職務が重なり、大変な時があった。



ぼく・わたし・パパ・ママ交流会



マークス文化祭

町内会発足 1年半で

- 皆、非常にいい挨拶を交わし合うことができるようになった。
- マンション内に知り合い、友達が増えた。
- 活動への参加率が向上した。
- 活動が「楽しい」という声が多い。(「活動内容と参加した仲間」がよいという声)
- ごみの出し方が整然・秀逸となってきている。



近隣地域町内会との交流会へ 地域の公園にて

これからの活動計画など

- 「これまでの活動の継続・精選・拡充」
- 「マークスラジオ体操クラブ」の立ち上げ(老若男女)
- 「お達者確認 週イチコール」
65歳以上の一人暮らしの方々に週1回
管理員から内線コール
「お変わりありませんか」
「お困りのことはありませんか」

**それぞれの時期に見合った、
快楽と知性と道徳がある。**

ボワロー「詩法」より

推薦者の言葉

藤枝市長

「マークス・ザ・タワー藤枝」は、一戸の新築マンション入居者で構成された、発足間もない町内会である。

家庭に引きこもりがちな子育て中の母親、高齢者などの交流の機会の提供や、地域の美化活動をはじめとしたマンションコミュニティの創出だけでなく、近隣町内会との交流イベントの実施など、全員が新規加入者という中で構成された町内会が、地域で安全・安心、かつ生き生きと暮らせるよう、地域コミュニティづくりに貢献している。

これらの活動は、コンパクトシティを目指す藤枝市で増えつつある「マンション型町内会」のモデル的活動となっている。